

SCHOOL DATA

〒278-0043 野田市清水 773
 TEL.04-7124-1191 FAX.04-7124-1159
 ■児童数/450人 ■教職員数/22人 ■周辺環境/住宅地

平成 22 年
 5 月 1 日現在



児童によるビオトープ整備作業の様子



ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/150㎡
- 設置者/清水を愛する会
- 設置した年/2010年
- 主な管理者/学校、市教育委員会

【生息している動物】

カモ、カラス、シオカラトンボ、オニヤンマ、アマガエル、ヒキガエル、カマキリ、ヤマカガシ

【生育している植物】

アヤメ、クレソン

【今後生息・生育させたい生物】

ホタル、黒メダカ、大賀ハス

<コンセプト>

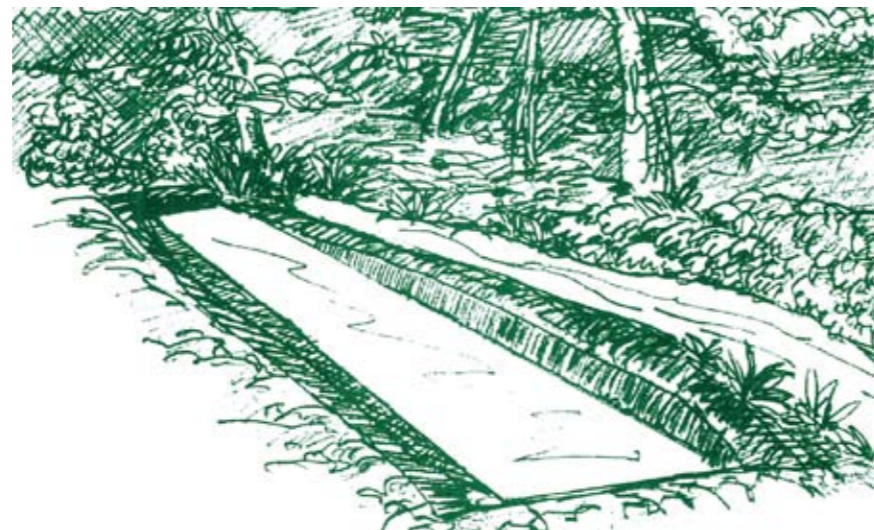
本校は、昭和49年に自然豊かな湿地帯、田んぼを埋め立てて建設されており、校地内は、自然環境が豊かである。敷地内には、わき水の湧く清水川が流れており、昔はホタルの生息地であった。現在は、わき水もごく少量となり、井戸を掘り、水をくみ上げて水量を確保している。清水川は、校門近くを水源に校地に沿って約250メートルほど流れており、児童の憩いの場でもある。

平成9年より、全校児童により清水川においてホタルの放流会を実施している。以前は、蛍の繁殖を確認した事例もあるが、現在はホタルの生息できる清水川を願ってホタルの幼虫やタニシを放流するとともに、毎年7月に、全校児童によるホタルの放流会を実施している。プランクトン、水生昆虫（ミスカマキリなど）、両生類（カエル・イモリ等）、魚類（メダカ・クチボソ・フナ）、藻類（金魚藻・カナダ藻）等が生息し、河川のごく少量となり、井戸を掘り、水をくみ上げて水量を確保している。清水川は、校門近くを水源に校地に沿って約250メートルほど流れており、児童の憩いの場でもある。

平成9年より、全校児童により清水川においてホタルの放流会を実施している。以前は、蛍の繁殖を確認した事例もあるが、現在はホタルの生息できる清水川を願ってホタルの幼虫やタニシを放流するとともに、毎年7月に、全校児童によるホタルの放流会を実施している。プランクトン、水生昆虫（ミスカマキリなど）、両生類（カエル・イモリ等）、魚類（メダカ・クチボソ・フナ）、藻類（金魚藻・カナダ藻）等が生息し、河川のごく少量となり、井戸を掘り、水をくみ上げて水量を確保している。清水川は、校門近くを水源に校地に沿って約250メートルほど流れており、児童の憩いの場でもある。

平成9年より、全校児童により清水川においてホタルの放流会を実施している。以前は、蛍の繁殖を確認した事例もあるが、現在はホタルの生息できる清水川を願ってホタルの幼虫やタニシを放流するとともに、毎年7月に、全校児童によるホタルの放流会を実施している。プランクトン、水生昆虫（ミスカマキリなど）、両生類（カエル・イモリ等）、魚類（メダカ・クチボソ・フナ）、藻類（金魚藻・カナダ藻）等が生息し、河川のごく少量となり、井戸を掘り、水をくみ上げて水量を確保している。清水川は、校門近くを水源に校地に沿って約250メートルほど流れており、児童の憩いの場でもある。

平成9年より、全校児童により清水川においてホタルの放流会を実施している。以前は、蛍の繁殖を確認した事例もあるが、現在はホタルの生息できる清水川を願ってホタルの幼虫やタニシを放流するとともに、毎年7月に、全校児童によるホタルの放流会を実施している。プランクトン、水生昆虫（ミスカマキリなど）、両生類（カエル・イモリ等）、魚類（メダカ・クチボソ・フナ）、藻類（金魚藻・カナダ藻）等が生息し、河川のごく少量となり、井戸を掘り、水をくみ上げて水量を確保している。清水川は、校門近くを水源に校地に沿って約250メートルほど流れており、児童の憩いの場でもある。



重機での整備作業



ビオトープでの清掃作業

ビオトープの活用方法

■児童

- ・改修後は、ホタル・魚類・藻類等を計画的に放流して1年生・2年生の生活科の学習、3年生～6年生の理科・総合学習の時間で清水川ビオトープの自然環境を活用して安全に学習に取り組めるようにする。
- ・カエル・トンボ・ホタル・メダカ等の生き物を直に観察させたい。
- ・清水川でザリガニつり大会やホタルの放流会、鑑賞会を予定している。
- ・日々児童が登下校時に身近に動植物を目にすることができ、自然に興味・関心が持てるように環境を整備する。
- ・環境・美化委員会の活動や日々の清掃活動の日常活動として自然環境の大切さを実感しながら美化運動を実施している。

■地域住民

- ・清水川沿いに森林があり自然豊かな環境のため、清水川沿いにベンチ・木道等を整備することができれば、清水川沿いに木陰の遊歩道を作ることができ、市民の憩いの場となる。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ・生活科や理科、総合学習の時間において、敷地内の自然環境豊かな清水川ビオトープを活用し、安全に学習に取り組むことができる。
- ・校門から校舎までの道沿い（約250メートル）に清水川が流れており、児童は、登下校時において常にビオトープに触れ、自然環境を体感することができる。
- ・ホタルの放流ばかりでなく、環境を整え、ホタルの生息を確認できれば、清水川や周辺の環境に関心を高め、自校への愛着と誇りを持てるようになる。

■教職員への効果

- ・生活科・理科・総合学習・学校行事において幅広い活用方法を考え、校内において自然環境を生かした安全な教育活動に取り組むことができるようになる。
- ・ホタルの生息する自校の自然環境に関心と誇りを持ち、生活科・理科・総合学習・環境教育・清水川を生かした教育活動の充実に努められるようになる。

■保護者・地域住民への効果

- ・ホタルの生息する清水川を復元することにより、清水地区、本校学区の憩いの場・愛着の持てる場とすることができる。

保護者・地域との連携

■保護者・地域住民

- ・ビオトープ整備段階から保護者の皆さんに協力していただき、共にホタルの生息できる清水川の整備を行い、清水川とビオトープに関心を高めていただき、自然豊かな環境の維持に協力を頂きたい。

■NPO 地域住民

- ・地域住民・清水台小学校PTAのOBから構成される「清水台小学校を愛する会」の方々にも計画の段階から参画いただき、地域全体で環境整備に興味・関心を持っていただき、地域から愛される清水台小学校、憩いの場となるホタルの自生する清水川の整備・維持に協力を頂く。

整備・活用・管理等の課題

- ・清水川沿いの土手の部分が滑りやすいため、安全に川の中・周辺を観察することができないため、児童・保護者・市民が安全に観察・散策できる遊歩道を整備することにより憩いの場として多くの市民が愛着の持てる場とした。
- ・清水川沿いの森林の枯れ木・枯れ葉が清水川に落ちてくるため、環境を維持するために多くの労力を必要としている。
- ・わき水の水量が少ないため、常時井戸水を清水川に供給しなければならず、井戸水の水源を確保する必要がある。

今後の展望

- ・環境・美化委員会等の校内組織が、常に清水川ビオトープの環境整備に取り組み動植物の生息に良い環境を維持できるように取り組みたい。
- ・清水台小学校のビオトープという場だけではなく、ホタルの生息する市民の憩いの場となるように「清水台小学校を愛する会」の方々・保護者の方とも連携し、定期的な整備、環境保全を実施していきたい。

整備担当者（教員、児童、保護者等）から

- ・清水川の校地側の部分にも木道を整備し、清水川に安全に近づき、清水川周辺の自然環境に容易に触れられる場所にしたい。清水川を挟んで校地の反対側の森林の整備については、担当当局と連携し環境整備を図っていきたい。